

小・中・都立学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

学 校 図 書 館

東京都教職員研修センター

I 研究主題および全体構想

1	研究主題	1
2	研究主題設定の理由	1
3	目指す児童・生徒像	1
4	研究仮説	2
5	研究内容の基本的な考え方と研究の方法	2
6	研究構想図	3

II 研究内容

A 分科会 調べ学習における情報活用指導と学校図書館の整備

(1)	分科会テーマ設定の理由	4
(2)	研究内容と方法	4
(3)	実証授業「虫のゆりかご」(国語科 小学校第3学年)	8
(4)	児童・生徒の学習を支える図書館のあり方	12

B 分科会 読書の習慣化につながる活動の工夫

(1)	分科会テーマ設定の理由	14
(2)	研究内容と方法	14
(3)	読書習慣に関する意識調査	16
(4)	実証授業「おもしろい本をしょうかいします」(国語科 小学校第3学年)	19
(5)	実証事例「朝読書を利用したミニブックトーク・韓国ブックフェア」 (特別活動 中学校第1学年)	22

III	研究の成果と課題	24
-----	----------	----

I 研究主題および全体構想

1 研究主題 「個に応じた学校図書館活動の在り方」

2 研究主題設定の理由

本を読むことにより、子どもは広い世界を知り、自分自身の考えを確かめたり高めたりする体験をもつことができる。さらにその体験を通し、豊かな感性や情操、考える習慣、思いやりの心などを身に付けることができる。また、読書は、子どもが変化の激しい社会に主体的に対応していくために、自ら課題を見だし、自ら考えたり、表現したりして解決することができるよう、子どもの資質や能力をはぐくむものである。

「東京都子ども読書活動推進計画」では、読書活動推進のための学校の役割として「子どもが読書に親しむ態度を育成し、読書習慣を形成するとともに、学校図書館を計画的に利用し、子どもの主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実することが大切」とし、学校における読書活動の推進を挙げている。そのために学校図書館は、子どもの多様な興味や関心にこたえるとともに知的な刺激を与えるきっかけとなるような魅力的な本を整備して「読書センター」としての機能を充実する活動と、調べ学習等を支えていく「学習情報センター」としての機能を充実する活動が必要であると述べている。

一方読書活動の現状は、都内2261校を対象にした「児童生徒の読書の状況及び学校における読書活動に関する調査」（平成15年6月教育庁指導部調査）によると、1ヶ月間全く本を読まない児童・生徒の割合が小学校3年生5.2%、6年生12.8%、中学校1年生28.9%、高校1年生54.7%と学年が進むほど割合が増えているが、逆に本を読んでいる高校生は1ヶ月に3冊以上読んでいると示されている。読む児童・生徒と読まない児童・生徒との間に大きな格差がみられる。

このような現状を踏まえ、児童・生徒の読書の推進には、読書にかかわる個人差に着目し、児童・生徒個々に応じた読書活動の工夫を図り、自発的に読書する態度や、本の情報を活用していく力を育成し、読書により豊かな生きる力を形成する必要から上記の研究主題を設定した。

3 目指す児童・生徒像

児童・生徒の読書活動の現状を踏まえ、本の情報を適切に選択・活用する態度（A）と自発的に読書をする態度（B）との2つの観点に分けて研究を行う。研究にあたっては、下記のような児童・生徒像を目指す。

（A）

- ・興味をもった事柄について追究に値する課題を設定し、公共図書館や学校図書館を利用して適切な資料を選び、主体的に活用できる児童・生徒
- ・資料を活用して調べた事柄に考察を加え、適切な方法で表現できる児童・生徒

（B）

- ・読書が習慣化し、自発的に読書をする児童・生徒
- ・自ら読書に取り組み、読書に親しみ、読書の幅を広げる児童・生徒

4 研究仮説

(本の情報を適切に選択・活用する態度について)

- ・調べ学習の入門期に個の到達段階に応じた指導を行うことで、主題設定能力、資料の選択と活用の能力、学習の成果の表現能力を身につけさせれば、主体的に情報を活用する姿勢をもって調べ学習を行う児童・生徒を育成することができる。

図書資料をはじめとする学校図書館の環境を整備し、学校内での教職員の理解を深め、公共図書館等との連携を進めることで、学校教育の多様な面で「学習情報センター」としての学校図書館の活用が可能となり、児童・生徒の情報活用能力を高めることができる。

(自発的に読書をする態度について)

- ・本に出会うために個に応じたきっかけをつくり、時間を確保し、さらに読書で得たことを交流する機会をもつことで、意欲的、主体的な読書の姿勢を育てることができる。

具体的には、ブックトーク（きっかけ作り）、日常の読書を支える活動（環境作り）、読書意欲を高める活動、この3点をかかわらせることで「意欲的な一人読みのサイクル」（ここでの「一人読み」とは、児童・生徒が主体的・自主的に本を手にとり読むこととする）ができ、それを重ねていくことによって、読書の習慣化につながると考えられる。

5 研究内容の基本的な考え方と研究の方法

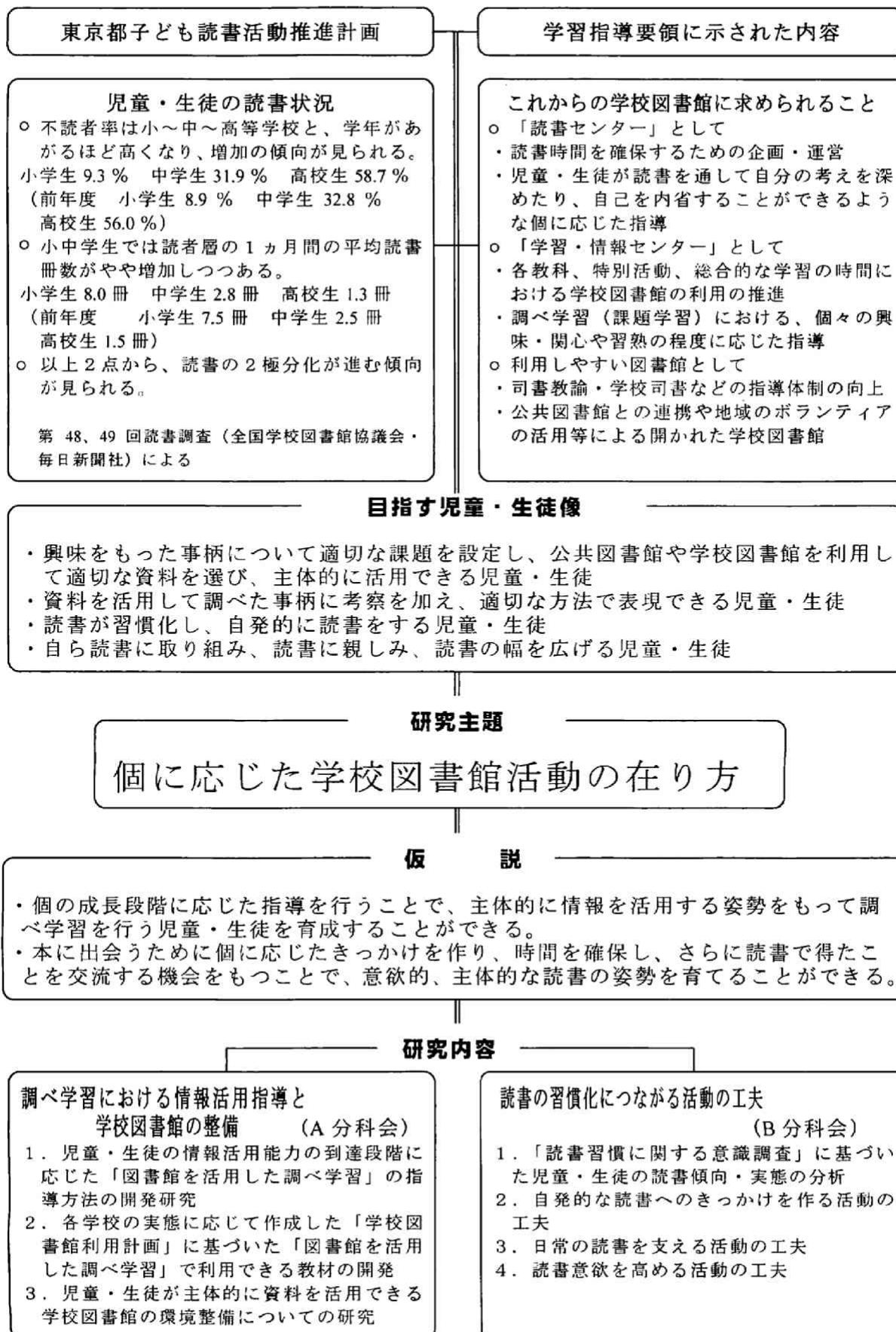
(1) 調べ学習における情報活用指導と学校図書館の整備（A分科会）

児童・生徒に図書館を利用して調べ学習をさせる場合、課題の設定能力、資料の活用能力、資料をまとめて表現する能力などを育てることが求められている。しかし、これらの能力をバランスよく育成できていない状況があると、調べ学習そのものが滞る場合が少なくない。その原因の一つとしては、適切な時期に図書館の情報活用の指導についてなされていないことが考えられる。また、児童・生徒の利用に適した学校図書館の整備が行われていないことも原因と考えられる。そこで、調べ学習の入門期における情報活用指導の方法と、児童・生徒が利用しやすい図書館の在り方を具体的に研究する。その際、個々の児童・生徒の情報活用に関する到達度に応じて、適切に指導したり、援助を行うための方策についても研究を行い、読書指導や授業により指導の工夫の検証を行う。

(2) 読書の習慣化につながる活動の工夫（B分科会）

読書活動を推進する指導を考える上で、まず課題となるのは、個人差の問題である。読書は、個人の活動であり、進んで本を読む児童・生徒と読まない児童・生徒の差は学年が進むにつれて広がる傾向がある。進んで本を手にとる児童・生徒は、読書への興味・関心が広がっていくが、一方で、読まない児童・生徒は読書活動の広がり育てるきっかけが不足することが予想される。そこで、個々の児童・生徒が「一人読み」を始める時期やきっかけを調査等によりつかみ、それを踏まえて個々の児童・生徒の読書活動の状況に応じた指導が必要である。そのため意識調査を行い、調査結果を基に読書意欲を高めるきっかけ作りや読書意欲を計画的に高めて読書の習慣化に結び付け、「一人読み」に発展できる読書活動の構成と実践を研究し、その工夫を読書指導や授業により検証する。

6 研究構想図



II 研究内容

1 A分科会 調べ学習における情報活用指導と学校図書館の整備

(1) 分科会テーマ設定の理由

本分科会は児童・生徒の図書館を活用しての情報活用能力を育成することと、このことを支えていく「学習情報センター」としての学校図書館の充実に視点をおいて研究を行った。

本分科会は情報活用能力を育成するための「調べ学習」を次のように定義した。

- ①児童・生徒個々が課題設定をするところから始まる学習である。
- ②課題に応じて資料を選択・活用し、児童・生徒個々が調べる学習である。
- ③児童・生徒が調べたことを再構成し、考察を加えて他者に向けて発信する学習である。

上記の学習においては、課題の設定、資料の活用、再構成して発信する方法について個々の到達段階に応じた情報活用の指導を行うことが必要である。また学校図書館が、児童・生徒にとって情報を活用して学習するのに適した環境になっていることが必要である。そこで、「調べ学習」における情報活用指導の方法と、児童・生徒が主体的に資料を活用する学習活動を支える図書館の在り方を具体的に研究していくこととし、本分科会の研究主題を上記のように設定した。

(2) 研究内容と方法

平成15年度の東京都教育研究員学校図書館部会は、「学校図書館が『学習情報センター』として活用されるためには、小学校から高等学校までの見通しをもった計画的な指導が必要である」とし、「学校図書館利用計画」を作成した。そこで本分科会は各学校の実態に応じて作成した「学校図書館利用計画」に基づいて「図書館を活用した調べ学習」を指導する際の、児童・生徒の情報活用能力の到達目標に応じた指導方法の開発研究を行った。

段階的に目標を定め、それに伴って、指導方法・内容を次のように設定し、それぞれ「まずはここから」（調べ学習を始めて間もない段階）と「慣れてきたら」（調べ学習を経験し、図書館の利用に習熟した段階）に分けて学習活動と学習支援の流れを検討した。

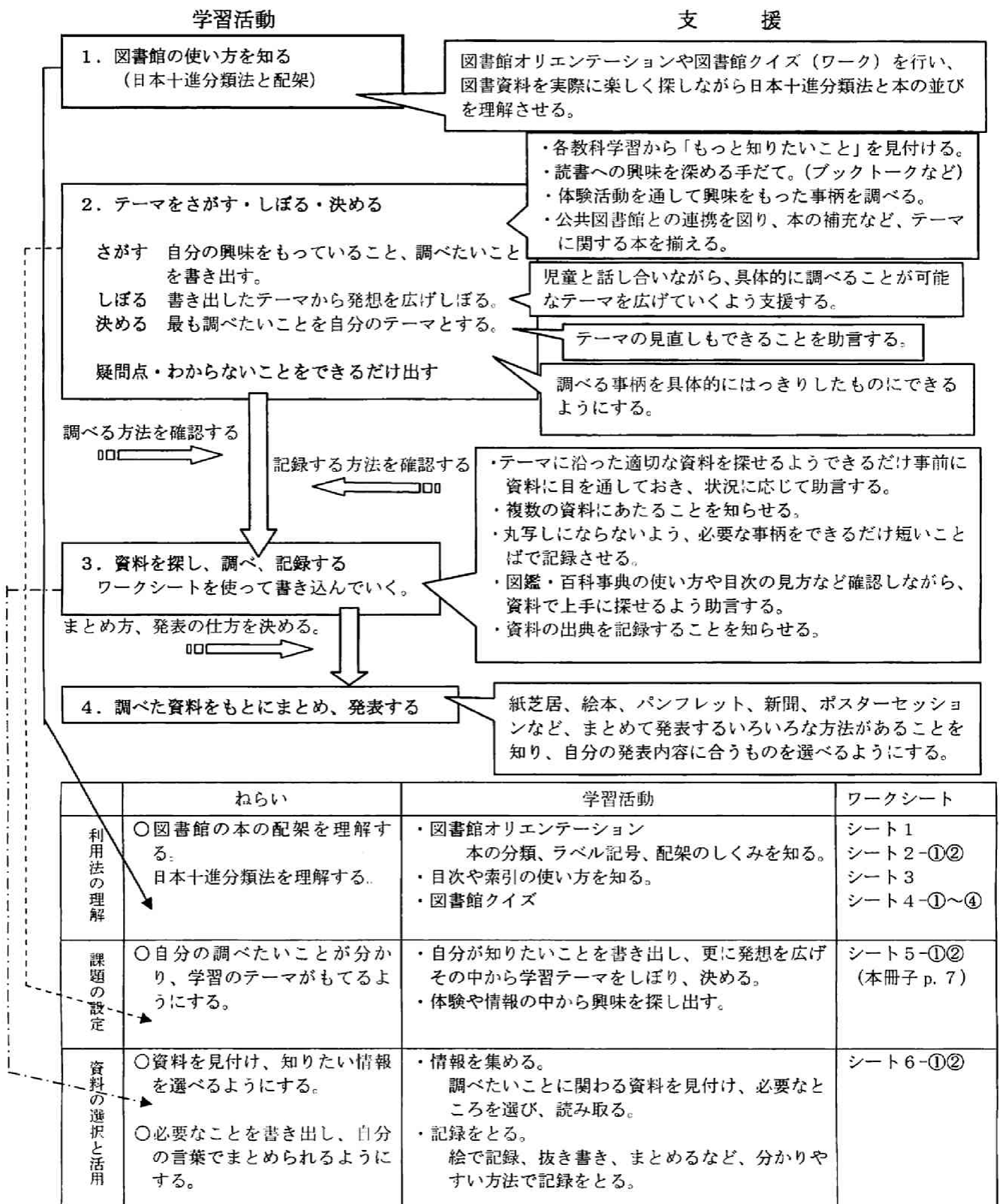
- ①図書館の利用法を理解させる。（最初に行うが、以後も学習支援として続ける。）
- ②課題を設定させる。
- ③課題に応じて資料を選択・活用し、児童・生徒個々が調べる。
- ④調べたことを再構成し、考察を加えて他者に向けて発信する。

さらに各段階で利用できる教材の開発を行った。児童・生徒の学習の状況に応じて作成した教材を使用して調べ学習を進めることで、情報活用能力が身に付いていき、主体的に情報を活用する姿勢を育成する道筋となるよう工夫した。なお、学校図書館だけでなく、公共図書館をも活用できる児童・生徒を育成することを目指し、教材は、日本十進分類法の利用を基本において作成した。

また、児童・生徒が利用しやすい学校図書館の環境を整えるとともに、配架や資料の充実、地域の施設との連携などを含め、教科や「総合的な学習の時間」の指導計画に応じた学校図書館にするための方法を検討した。

以上について実証授業を行った。

表1 調べ学習の活動と支援の流れ **まずはここから**

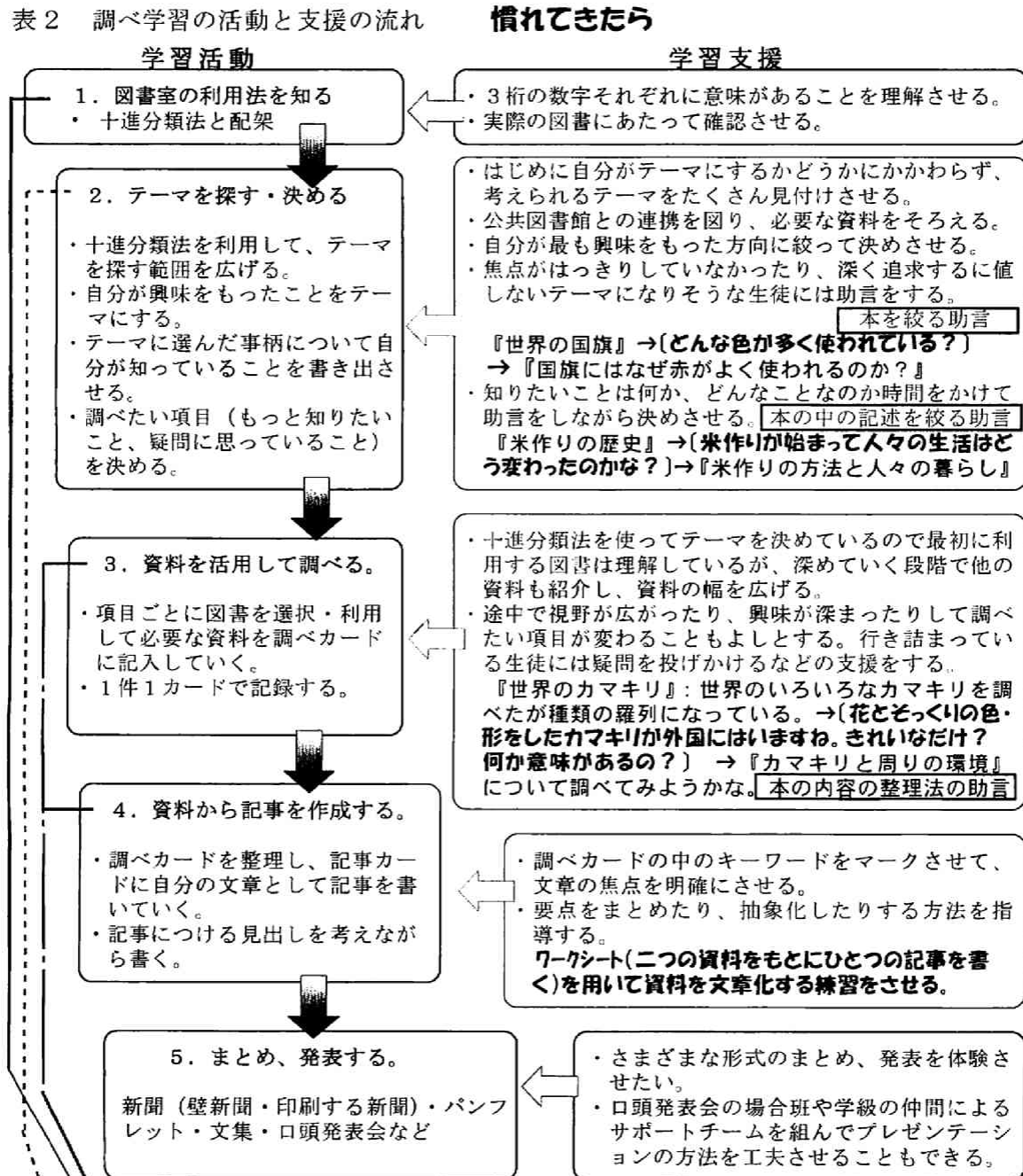


「まずはここから」: 図書館及び資料の利用法を理解させることに重点をおいている。

「慣れてきたら」(次ページ): 資料を活用し、再構成する方法の指導に重点をおいている。

どの段階でもテーマ設定には十分に時間をかけることが大切である。

表2 調べ学習の活動と支援の流れ

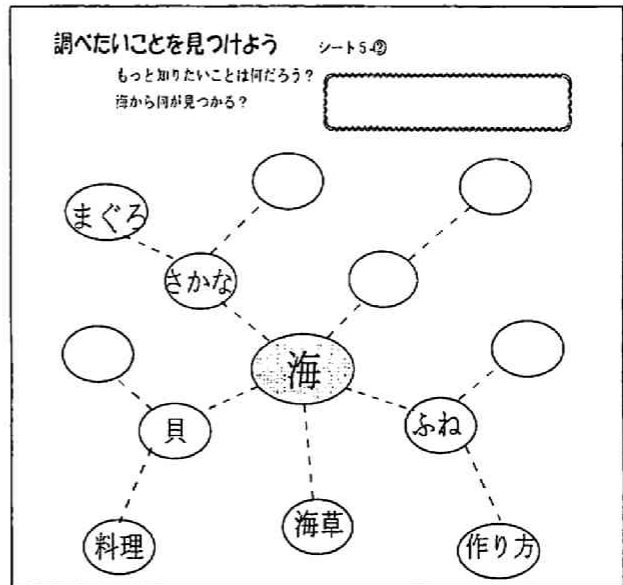
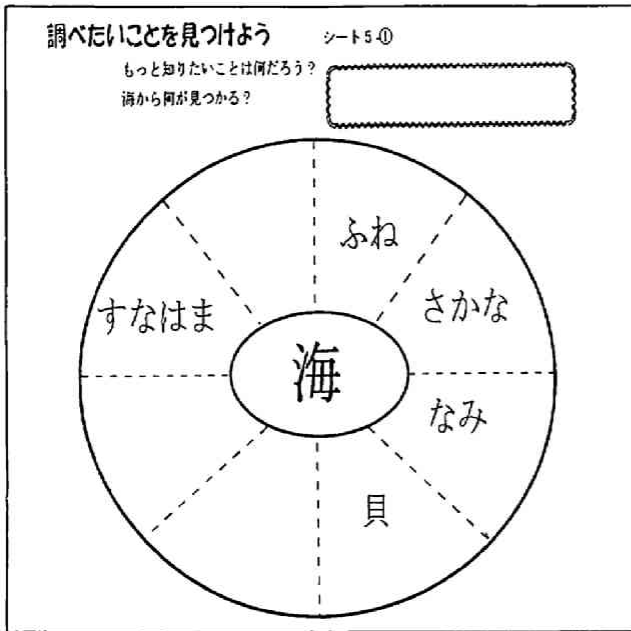


	ねらい	学習活動	ワークシート
利用法の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の配架を理解させる。 ・十進分類法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見取り図から図書の配架を理解する。 ・十進分類法による図書の分類を理解する。 ・十進分類と実際の図書を照らし合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シート1 ・シート2 ・シート3
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の視野を広げさせる。 ・課題を設定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十進分類を利用して課題を発見する。 ・自分が知っていることと、これから知りたいことを整理し、調べる項目を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シート4 (p.7 参照) ・シート5
資料の選択と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・調べカード(資料からメモを取る)の書き方を理解させる。 ・記事カード(資料を再構成する)の書き方を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを見つけメモをとる練習をする。 ・資料を使って調べ、カードに記入する。 ・調べカードから記事を作成する練習をする。 ・調べカードから記事を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シート6 ・シート7 ・シート8 ・シート9

到達段階に応じたテーマ探しのシート 例 (p. 5, 6の表を参照)

まずはここから シート5-①

大きなテーマから具体的に調べたいことを見付けるためのシート



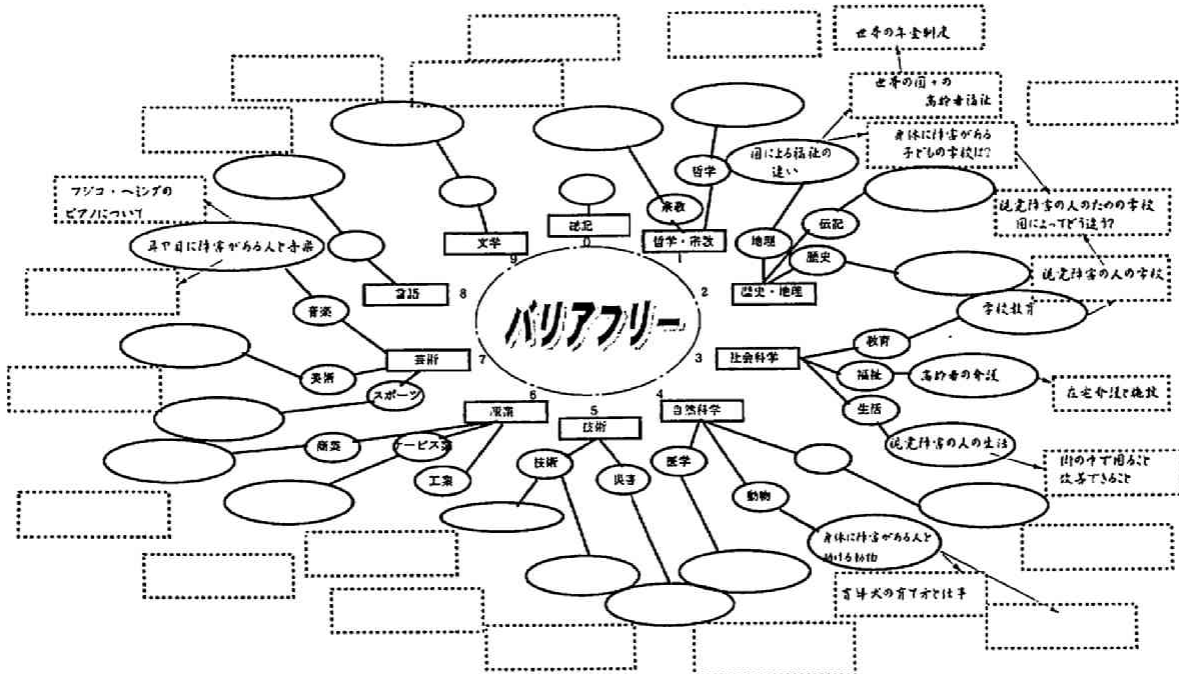
まずはここから シート5-②

視野を広げ、さらに具体的なテーマを見付けるためのシート

慣れてきたら シート4

図書資料と関連させて視野を広げ、さらに焦点を絞ったテーマを見付けるためのシート
(日本十進分類法の利用のしかたを十分理解した段階で使用する。)

「バリアフリー」からみつけよう シート4



(3) 実証授業

① 単元名 国語科「虫のゆりかご」－虫の知恵はかせになろう－（小学校第3学年）

② 単元の目標

- 【国語科】 ○おとしぶみの知恵に興味をもち、語句に注意しながら文章を正しく読む。
○虫の知恵について本で調べ、わかったことをパンフレットにまとめる。
- 【情報活用】 ○自分の調べたい学習のテーマがもてる。
○調べたいことについて適切な資料を見付けようとする。
○自分の言葉でわかりやすく伝える。

③ 評価規準

【国語科】

関心・意欲・態度	・虫の知恵に関する様々な読み物に興味をもち、読む。
書くこと	・虫の知恵についてよくわかるようにパンフレットにまとめる。
読むこと	・細かく観察している部分に気を付けて読む。
言語事項	・順序よく表現するための言葉の使い方を知る。

【情報の活用】・自分の調べたい学習のテーマをもつ。

- ・調べたいことについて適切な資料を見付ける。
- ・自分のことばでわかりやすく伝える。

④ 研究主題との関連

(ア) 単元設定について

3年生の児童が、調べ学習を行う楽しさを味わうことにつながる単元として、説明文「虫のゆりかご」－第3学年国語科（光村図書）－を設定した。「虫のゆりかご」は、おとしぶみが、さまざまな知恵をはたらかせていることを読み手に知らせ、生き物の生態について興味・関心をもたせる教材である。読解の学習中に生じた疑問や、他の生き物に広がる興味から出発し、「調べ学習の流れと支援」（本報告書5ページ参照）に沿って、効果的な調べ学習を進めたいと考えた。

(イ) 「学習・情報センター」としてあるべき学校図書館の整備

各区市町村や学校の学習環境によって、整備の実態に差がでることは、言うまでもない。また本単元では、「虫」という課題により、「自然科学」の分類に児童が集まることは必至である。学校図書館のみの対応では難しく、公共図書館の協力を得て資料を充実させた。

常任の司書教諭が不在の中、公共図書館との連携や保護者ボランティアの協力を受けながら、児童の意欲的な「調べ学習」を支援する基本的な整備の方法や、発達段階に応じて児童が理解しやすい効果的な分類の工夫を考えた。

⑤ 単元の指導計画（15時間扱い）

第1次「虫のゆりかご」を読む（5時間）

第2次「虫の知恵はかせになろう」（9時間）（5時間目／9時間中）

第3次 言葉の学習（1時間）

◎第2次の展開（9時間）





	学 習 活 動	調べ学習の流れ（P5参照）	・指導上の留意点・支援	☆情報の活用における支援 ◎評価規準
1	・パンフレット作りについて知る。		・パンフレット作りに意欲がもてるよう、既製のパンフレットを提示する。 ・「虫の知恵」のイメージを広げ、自分の調べたい学習テーマがもてるよう、「虫の知恵」に関する本のブックトークを行う。◎調べ学習に対する興味・関心をもつ。	
2 3	・調べたいテーマを見付ける。	2	・自分の学習テーマを見付け、調べることを具体的にするために★ワークシート5を用意する。 ◎自分の調べたい学習のテーマをもっているか。	
4	・テーマと調べる内容をはっきりさせる。	2	☆児童への支援を充実させるためT・T指導を取り入れる。 ☆公共図書館との連携を図り、資料を充実させる。 ☆テーマに沿った適切な資料を探せるよう、事前に目を通しておき、状況に応じて助言する。	
5 本時	・調べたい目的に合った資料を見付ける。	3	・複数の資料にあたる方法を知らせる。必要な事柄をできるだけ短い言葉で★ワークシート6に記入させる。 ・資料の必要な部分について、付箋を利用させる。 ☆調べたい目的にあった箇所を見付けられたか、机間指導をする。 ◎調べたいことに対して適切な資料を見つけられたか。	
6	・資料から必要な事柄をワークシートにまとめる。			
7 8	・ワークシートを活用しながらパンフレットを作る。 ・パンフレットの前書き、目次などを作る。	4	・パンフレットを作るために、★ワークシート6から必要な事柄を選び整理できていない児童には、必要な情報の選び方を支援する。 ・調べたことや自分の考えたことがわかりやすくまとめることができるよう、パンフレットを読む相手がいることを意識させる。◎読む相手を意識して自分のことばでわかりやすく伝えようとしているか。	
9	・パンフレットをお互いに見合い発表する。	4	・他の児童の作品の良さに気づかせ、さらに工夫するところを考えさせる。 ・達成感が深まるようパンフレットを見せあったり、発表したりする場を設ける。 ◎他の児童の作品を見て、資料の活用法を学び、次の調べ学習に生かそうとしているか。	

⑥ 本時の活動（第2次5時間目）

(ア) 本時の目標

- ・ 調べたい事柄がのっている資料を見付けることができる。
- ・ 知りたかった事柄を、ワークシートに書くことができる。

(イ) 本時の展開

活動内容	○指導上の留意点 ◎評価
<p>・ 活動の内容と、活動のめあてを知る、</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>虫の知恵はかせになろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたいことがのっている本をさがそう。 ・ 知りたかったことを「調べカード」に書こう。 </div>  <p style="text-align: center;">分類番号486 を調べています</p>  <p style="text-align: center;">公共図書館から借りた本。調べたことが山ほどのっています。</p>  <p style="text-align: center;">相談したり、調べたりしているうち、調べたいことが変わることもあります</p>  <p style="text-align: center;">知りたかったことだけをまとめています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたことを、発表する。 ・ パンフレット作りに必要な資料を、次時にさらに調べることを伝える。 	<p>○活動の内容を確認する。</p> <p>○数冊の本にあたらせ、見付けたページには個人名が記入された付箋をはらせる。</p> <p>○十進分類（1000区分）を確認する。また、公共図書館から借りた本を提供する。</p> <p>○資料を読むうちに、調べたいことが変わってもよいことを伝える。</p> <p>◎数冊の本に付箋をはることができたか。（調べたい事柄がのっている本を見付けることができたか。）</p> <p>○「調べカード」には、知りたかったことだけを書かせ、丸写しさせないようにする。</p> <p>◎一枚でも、「調べカード」に知りたかったことを書くことができたか。</p>

⑦ 考察

工夫①テーマを決めるに当たって、ワークシート5に取り組ませた。

成果—「虫」は、もともと児童が興味をもちやすいテーマだったが、ワークシートにより、児童の発想が広がった。

考察—一つのテーマからいろいろな言葉を連想させ、改めて自分の調べたい事柄をしぼり込むことができるワークシート5は、児童がテーマを意欲的に探すのに大変効果的である。

工夫②よりよい資料に出会うまで、数冊の本を探して調べるよう助言した。ワークシート1～4で、十進分類や目次・索引の利用の仕方、配架のしくみ等を繰り返し指導した。また、同時に数冊の本を検討する方法として、各自で本にしおり代わりの付箋を貼らせた。

成果—ワークシートにより自分の求める本をすばやく探すことができるようになった。

また、数冊の本を検討することによって、最適な本を探すことができた。

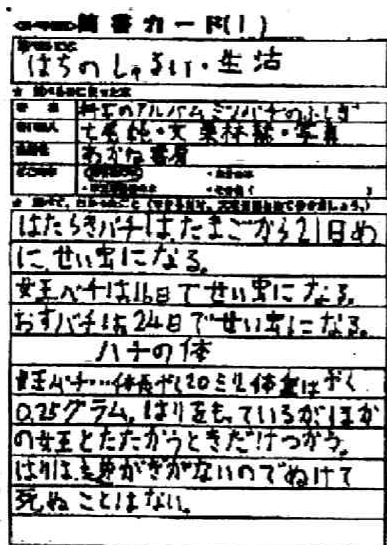
考察—求めている資料に短時間で出会うためには、日常から学校図書館の活用方法を熟知していることが必要である。ワークシートを用いてオリエンテーションを行うことは、効果的である。

工夫③調べたいこと一つに付き一枚の「調べカード」に書かせた。資料を探す前に、「自分の知りたいことだけを書きましょう。」と助言した。

成果—知りたいことを資料の中から探し、短い言葉でまとめることができた。

考察—資料の丸写しをさけるためにも、「調べカード」の在り方や助言の仕方は、とても大事であることがわかる。

調べ学習を始めたばかりのこの時期の児童は、文章ばかりではなく、絵でも調べたことを表現することを望む傾向にある。「文章を書くカード」・「絵でまとめるカード」等いろいろな様式を提示することが必要であった。



工夫④調べカードは、その都度掲示した。

成果—友だちのカードから、テーマのもち方やカードのまとめ方を学んだ。

考察—たえず学びあう環境をつくり、児童の主体的な学びを支援することは、大事なことである。学びから、自分の取り組みを見直し、テーマを途中で変更することがあってもよいと考えた。

(4) 児童・生徒の学習を支える図書館の在り方

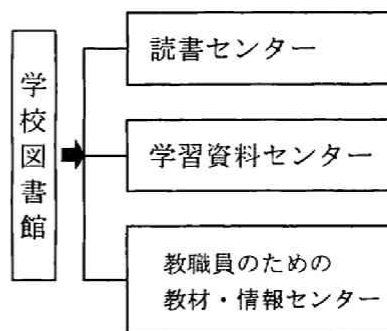
学校図書館は子どもたちが日に何度も通いたくなる「心のオアシス」「頼りになる図書館」である必要がある。本が雑然と並んでいるだけの書庫では、子どもにとって、近い場所にはならない。そこで、より効果的に読書活動を進めるために、児童・生徒の学習を支える学校図書館活動の段階に応じた整備の在り方を示す。

① 学校図書館活用教育のための条件整備

学校図書館活用教育をすすめるためには「学校図書館は静かに本を読むところ」という認識を転換し、教育課程の展開に関わる学校図書館の機能について校内の共通理解を図らなければならない。そして教科書という同一メディアを利用した一斉授業から、異なったものを個々別々に多様なメディアで学習する授業形態への導入を司書教諭、図書主任がリーダーシップをとり進める必要がある。年1～2回は「調べ学習」など、探究型の学習を計画し、図書館の利用を増やすようにしたい。そのために図書館指導目標や図書館経営と学校教育目標、校内研究主題との関係を明らかにする構想図を作成することは重要である。さらに校内組織に校長、副校長、教務主幹、司書教諭、学校司書、図書主任、図書館担当、視聴覚主任、学年・専科代表などで構成する「学校図書館活用委員会」を設けることは大切な条件整備である。

また学校図書館が教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間において「学習情報センター」としての役割を果たすためには1校の学校図書館では資料の種類冊数など対応することは困難である。そのため一館ですべてのニーズに応えようとする従来の閉鎖的な「一館孤立型」からネットワークや支援システムの「資源共有型」をめざす必要がある。

学校図書館の機能



② 児童・生徒が利用しやすい図書館整備「3ステップ」

雑然と本が置かれどの資料がどこにあるか分からないという図書館では活用することは困難である。児童・生徒が自分の力で資料にたどりつけるように“書庫”から“図書館”へ機能の拡充を行う必要がある。そのための整備を段階的に進めるために3 Stepを示す。

書庫から図書館へ	
ステップ1	(1) 図書館全体のレイアウトの決定 利用者である子どもの視点に立って考え、図書館の形や床面積の状況に応じながら「読書センター」と「学習情報センター」の各コーナーに分けられるとよい。
	(2) 払い出し廃棄 データが古いなど資料として価値がない資料、修理が不可能などの図書資料を「学校図書館図書廃棄規準」(全国学校図書館協議会/1993)などを参考にして払い出す。
	(3) 日本十進分類法(NDC)を基本とした配架 図書は基本的には入り口から時計回りに日本十進分類法(NDC)を基本に配架する。 ・国語辞典、漢字辞典はブックトラックなど専用の書架を準備し、児童・生徒が利用しやすかつ教室にも運びやすいようにしておく。その学年に応じた国語、漢字辞典を教室の近くに置くとよい。 ・各教科や総合的な学習によく利用される本は、期限をつ



	<p>けてコーナーを設けるなど工夫する。 (例)「昆虫」、「野菜の栽培」、「米」、「川」、「世界のあそび」</p> <p>迷宮からの脱出 (分かりやすい表示の工夫)</p>																												
ステップ2	<p>(1)館内全体の見取り図 どこにどの分類の本を配架しているかイラストなどを取り入れ児童・生徒に親しみやすく掲示したり、プリントにしたりする。</p> <p>(2)分かりやすい書架案内 自分の力で本を探しやすくするため児童・生徒の発達段階に応じて日本十進分類法(NDC)は分かりやすい言葉で見やすく表示する。書架にも書籍のケースなどを利用して表示すると一層分かりやすい。</p> <p>(例) 0 総記…調べる本 4 自然科学…算数、理科、星、植物、動物など 7 芸術・体育…芸術、図工、音楽、体育など 8 言語…ことば、辞典など</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="font-size: 48px; margin-right: 10px;">4</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">自然科学</p> <p style="text-align: center; margin: 0;">(しぜんかがく)</p> <table border="0" style="font-size: small; margin: 0;"> <tr> <td>41</td> <td>算数</td> <td>48</td> <td>動物</td> </tr> <tr> <td>42</td> <td>算数</td> <td>485</td> <td>算数</td> </tr> <tr> <td>43</td> <td>算数</td> <td>486</td> <td>昆虫</td> </tr> <tr> <td>44</td> <td>天文(宇宙・星)</td> <td>487</td> <td>宇宙</td> </tr> <tr> <td>45</td> <td>植物(樹木・花)</td> <td>488</td> <td>植物</td> </tr> <tr> <td>46</td> <td>生物</td> <td>489</td> <td>昆虫</td> </tr> <tr> <td>47</td> <td>算数</td> <td>49</td> <td>算数(人)</td> </tr> </table> </div> </div> </div>	41	算数	48	動物	42	算数	485	算数	43	算数	486	昆虫	44	天文(宇宙・星)	487	宇宙	45	植物(樹木・花)	488	植物	46	生物	489	昆虫	47	算数	49	算数(人)
41	算数	48	動物																										
42	算数	485	算数																										
43	算数	486	昆虫																										
44	天文(宇宙・星)	487	宇宙																										
45	植物(樹木・花)	488	植物																										
46	生物	489	昆虫																										
47	算数	49	算数(人)																										
ステップ3	<p>頼りになる学校図書館へ</p> <p>(1)蔵書・資料の充実 ・図書館の実体を「学校図書館メディア規準」(文部科学省・全国学校図書館協議会)に照合し把握する。 ・「基本図書目録」(全国学校図書館協議会)などを参照し、計画的にバランスのとれた魅力ある蔵書構成を行う。</p> <p>(2)検索の工夫 ・「ことがらカード目録」 調べるための資料探しには、書名や著者名ではなく「手話」について「川の汚れ」についてなど「ことがら」を手がかりに見つけようとする場合が多い。そのため「ことがらカード目録」(件名目録)を整備する。</p> <p>・「単元別図書参考目録」(児童・生徒、教職員のための教材・情報) 各教科を単元別に参考資料リストを紹介したもので、学習する単元に応じて教師、児童・生徒が活用することのできる資料を目録化する。</p> <p>・書誌データベースの活用 各自治体単位に蔵書のデータベース化が進めば公共図書館、各小中学校、都立学校の資料を検索し活用することができる。</p>																												

③ 図書館ボランティアとの連携

以上の整備のための3ステップには労力が必要となる。現状では校内の協力体制や図書館ボランティアとの連携で児童・生徒が利用しやすく、頼りにされる学校図書館をつくりあげる必要がある。

ボランティアとの連携については、学校として図書館整備のどの分野でどんな仕事をしてもらうかははっきりさせ、司書教諭や学校図書館主任がリーダーシップをとる。

④ 公共図書館、他校の学校図書館との連携

教科学習、総合的な学習での資料活用のために、以前から多くの区市町村で公共図書館と学校図書館との連携を図っている。形態は様々で、ファクシミリや電話で申し込むと貸し出し配送してくれるところもあるが、学校の担当者が直接出向き貸し出しや返却を行う場合もある。文部科学省のすすめる「学校図書館資源共有型モデル地域事業」が目指すシステム実現のためには、先に述べた「学校図書館活用委員会」を活用するなど学校での組織的取り組みが必要となる。

2 B分科会 読書の習慣化につながる活動の工夫

(1) 分科会テーマ設定の理由

習慣的かつ意欲的に読書に取り組む児童・生徒を育てる指導を考える上でまず課題となるのは、個人差の問題である。読書は個人の活動であり、進んで本を読む児童・生徒と読まない児童・生徒の差は学年が進むにつれて広がる傾向がある。また、個人の読書習慣には様々な違いがある。その中で自発的に読書に取り組む児童・生徒は、次から次へと読書の幅が広がっていくが、一方、自発的に読書に取り組まない児童・生徒は、なかなか読書活動が広がっていかないと考えられる。

そこで、必要となってくるのが、一人読み（ここでの「一人読み」とは、児童・生徒が自発的に本を手に取り読むこととする）の実態や傾向をつかみ、それを踏まえての読書の習慣化を図る指導である。児童・生徒の読書の実態や傾向をつかむことで、個々に応じての指導方法が見えてくると考えられる。実態や傾向をつかんだ上で、読書習慣を身に付けるためのきっかけをどのようなタイミングで行うのが効果的か、また興味・関心を持続するのにどのような方法・手段があるのかを研究実践する必要があると考える。そこで、児童・生徒の読書の習慣化を図り、一人読みのできる児童・生徒を育成するために上記の分科会の研究主題を設定した。

本分科会の研究では、個々の児童・生徒の興味・関心を基に読書に親しむ態度を育成し、読書習慣の形成のための手だてを重点的に研究した。

(2) 研究内容と方法

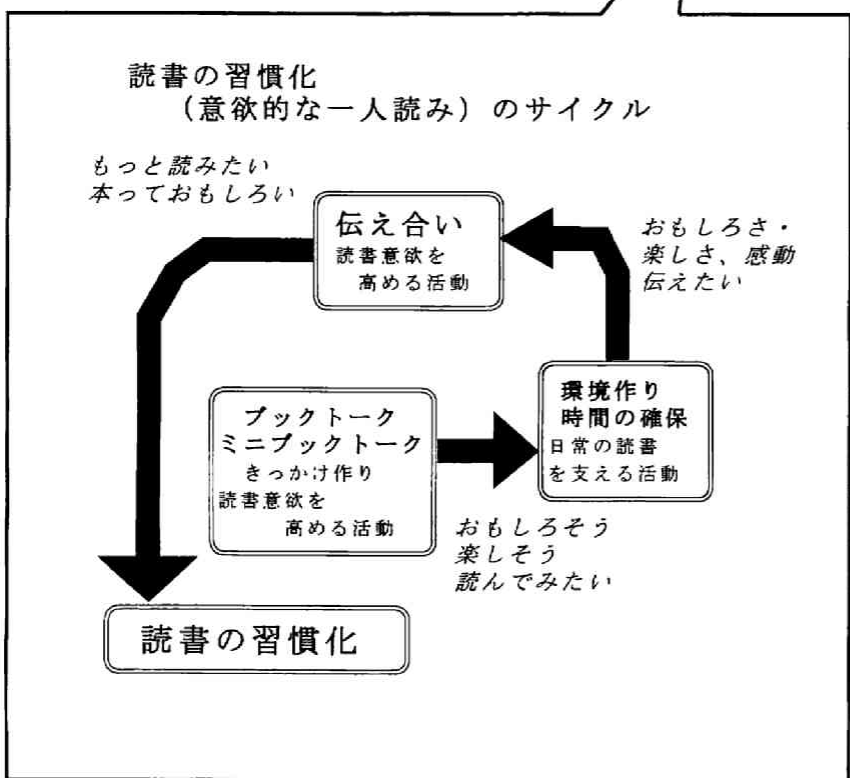
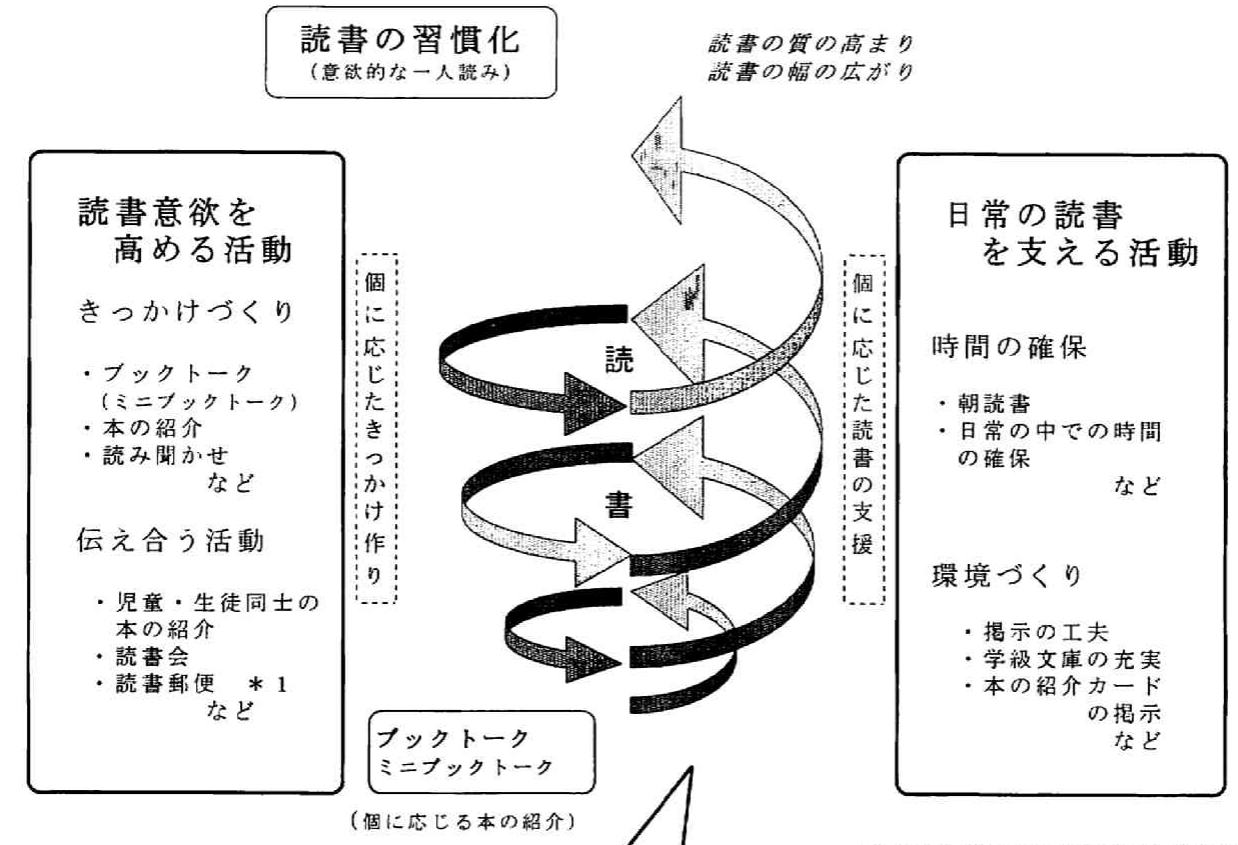
読書の習慣化の研究をする上で、児童・生徒の読書の実態や傾向、また、現在の読書習慣や意識を知るために「読書に関する意識調査」を行なった。それを分析した結果、児童・生徒が様々な意識をもって読書をしていることがわかった。それを受けて児童・生徒の個々に応じて本を自発的に読み、習慣化するための手だてを研究した。

意識調査から読書習慣が身に付く時期は、小学校3年生以降に「よく読むようになった」との回答が急激に増えている。(図2, 16ページ)、また、本を読まない理由が多かったのが「おもしろいと思う本がない」「時間がかかる」である。(図5, 17ページ)

このことから、一人読みの始まる小学校3年生以降に、読書意欲を高める活動をすることで本のおもしろさを伝え、さらに時間の確保などの日常の読書活動を支える活動の取り組みによって、読書の習慣化につながられると考えた。さらに、読書意欲を高めるきっかけとして、教師が短時間で多様な本を紹介するブックトークに着目した。特に、朝読書の時間等の短い読書指導の時間でも手軽にできる「ミニブックトーク」(表3)を研究した。日常生活の中で、無理なく本の紹介ができ、様々な本を1回に複数冊紹介できるブックトークの要素を活かすことで児童・生徒も教師も手軽に本を楽しめ、本に対する興味、関心を高められると考えた。

興味・関心が高まったところで、その本について伝える場の設定、いつでも本を手にとれる環境の設定、読書のための時間の確保などの「読書意欲を高める活動」「日常の読書を支える活動」の日常的な取り組みを繰り返すことにより、読書の習慣化が図れると考え、実践授業で検証をした。

概念図（読書の習慣化につながる概念図）



- 読書意欲を高める活動例
- ・読み聞かせ
 - ・ストーリーテリング
 - ・パネルシアター
 - ・ペープサート
 - ・スピーチ
 - ・紙芝居
 - ・劇化
 - ・読書クイズ
 - ・アニメーション
 - ・読書カード
 - ・本のCM *2
 - ・読書新聞
 - ・読書感想文
 - ・家庭読書 *3

*1 読書郵便
自分が読んだ本の紹介を手紙にして友だちなどと交換する手法。(実証事例3参照)

*2 本のCM
本の紹介の一例。CM(コマーシャル)のように絵とメッセージをカードにかいて紹介する手法。(実証事例4参照)

*3 家庭読書
一冊の本を保護者と子どもでそれぞれに読み、感想を交換し交流する手法(実証事例3参照)

(3) 読書習慣に関する意識調査

調査対象 都内公立小学校5・6年生485名 都内公立中学校2年生381名

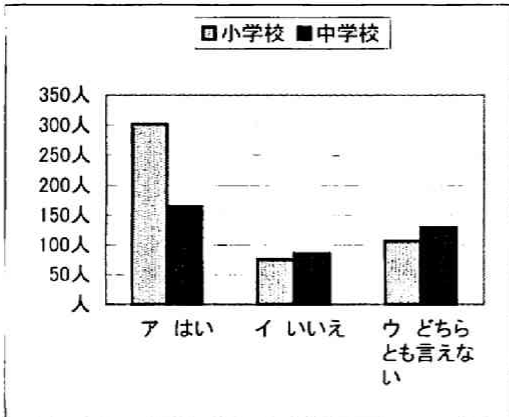


図1 あなたは自分からすすんで本を読むほうですか。

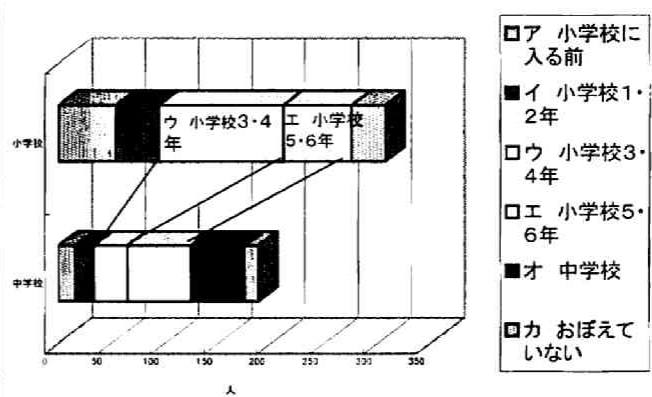


図2 よく読むようになったのは、いつごろですか。

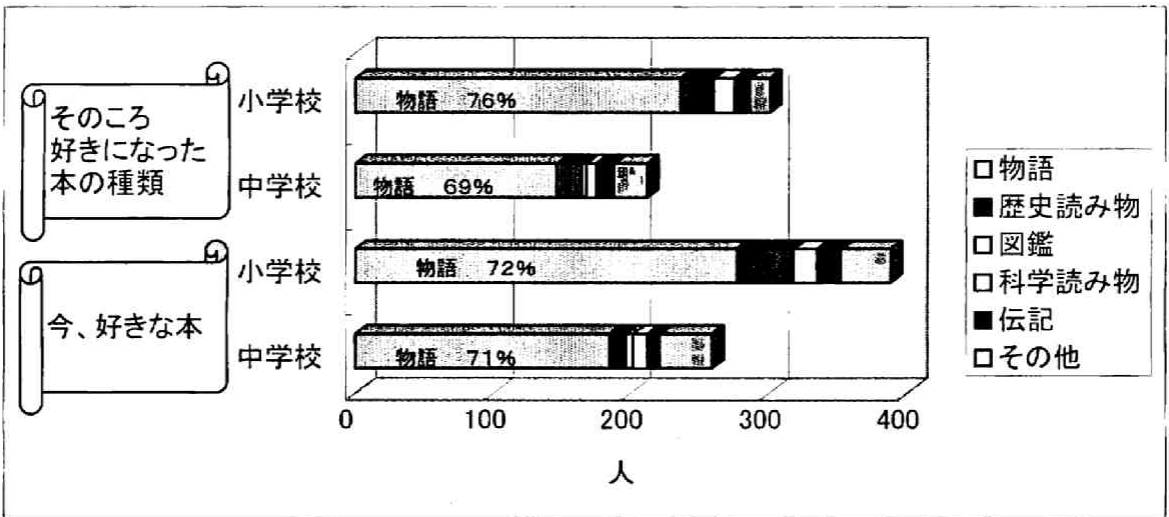


図3 そのころ好きになった本の種類(上二段)

今、好きな本(下二段)

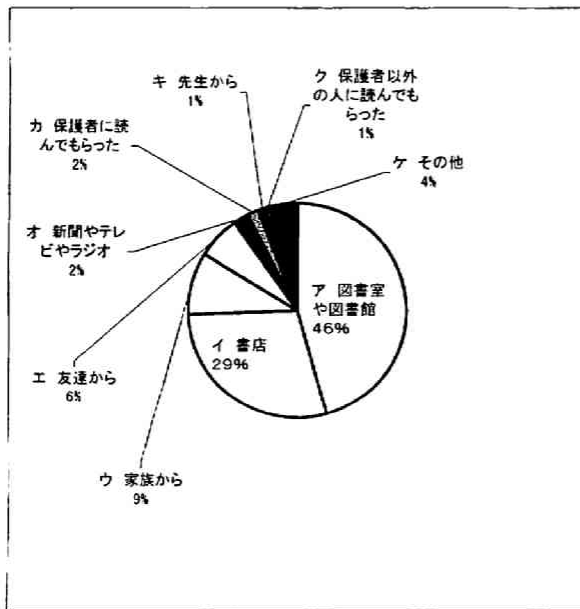


図4-1 小学校

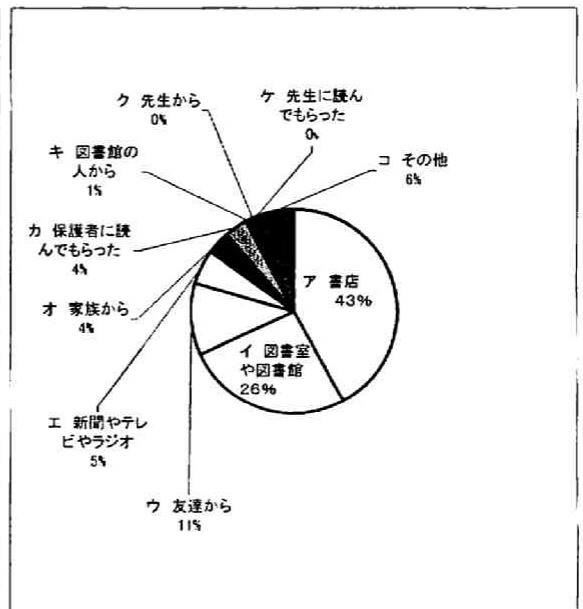


図4-2 中学校

好きになった本をどのようにして見付けましたか。

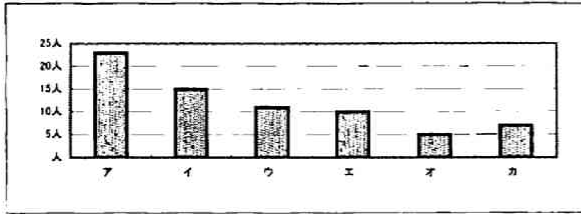


図5-1 小学校

ア 文字を読むのがいや
エ どんな本があるのかわからない

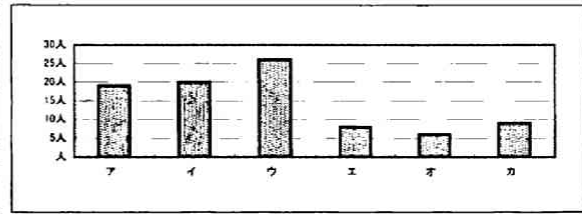


図5-2 中学校

本を読まないのはなぜ。
イ 本は読むのに時間がかかる
ウ おもしろいと思う本がない
オ 場所に行くのがめんどろ
カ その他

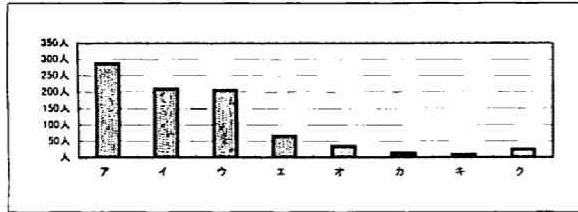


図6-1 小学校

ア おもしろい本と出会えば
エ 得をすることがわかれば
キ 先生から薦められれば

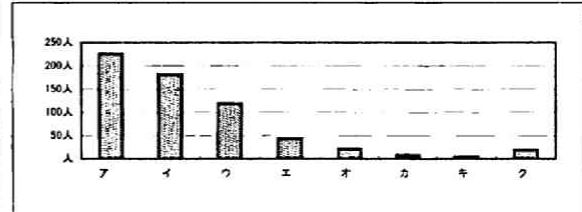


図6-2 中学校

どうしたらもっと本を読むようになりますか。
イ 読むための時間があれば
ウ 楽しいということがわかれば
オ 友だちから薦められれば
カ 親から薦められれば
ク その他

【考察】

このアンケートは、本をよく読むようになったきっかけを調べるものである。自分の読書歴を客観的に振り返ることができると考え、対象学年は小学5・6年生と中学2年生にした。

図1 「自分からすすんで本を読むか」の問いに対して小学校、中学校ともに「どちらとも言えない」が「いいえ」を上回った。このことから、教師の働きかけによって、自ら進んで本を読むように児童・生徒を導くことができると考えられる。

図2 読書習慣が身に付いた時期を尋ねた問いに対して、小学校・中学校ともに小学3年生以降で「よく読むようになった」との回答が急激に増えている。これは、この程度の学年に進級すると文字がある程度読めるようになって、読むことのできる本が急激に増えることが理由と考えられる。

図3 よく読む本の種類を二つの時期に分けて尋ねたものである。よく読むようになったころ、及び現在とも「物語」の回答が圧倒的に多い。このことから読書習慣が身に付いてくると、ストーリー性をもつものに児童・生徒はひかれていくと考えられる。

図4 読書習慣が身に付くきっかけとなった本を見つけた様子を尋ねると、小学生と中学校2年生でその順位は逆転しているものの、約7割の児童・生徒が「図書室か図書館」または「書店」で本を見つけている。意欲的に読む本は、自ら足を運んで手に入れている様子がうかがえる。

図5・図6 図5では、本を読まない理由において個人差が見られたが、小学校・中学校ともに「本は読むのに時間がかかる」「文字を読むのがいや」「おもしろいと思う本がない」が多いことが分かる。図6からは小学校・中学校ともに、本を読むためには「おもしろい本と出会えば」「読むための時間があれば」が多いことが分かる。このことから、おもしろい本と出会い、さらに読むための時間があれば意欲的な読書が一層進むと考えられる。

以上のことから児童・生徒が読書活動を習慣化するためには、小学校中学年を対象に、「おもしろい本」「興味・関心をひく本」を個に応じて提示することが効果的であることが分かる。

表1 ミニブックトーク

「ミニブックトーク」とは、短時間で比較的少ない冊数でおこなうブックトークで、児童・生徒の本への興味・関心を高める手法である。

「ミニブックトーク」の手法

- ① 15～20分など短時間で本を紹介するブックトークである。
- ② 紹介する本は、発達段階や集団の実態に合わせた冊数でおこなう。(3～8冊)
- ③ 本の選択は、ブックトーク同様テーマを決めいくつかのジャンルから幅広く選び、偏らないようにする。
- ④ 紹介後、本を読む時間を確保する。時間がとれない場合は、生活の中で工夫し、日常的に支援をおこなう。

	第1段階 (小学校1・2年)	第2段階 (小学校3・4年)	第3段階 (小学校5・6年)	第4段階 (中学校)
ねらい (学習指導要領より)	昔話や童話などの読み聞かせを聞くこと、絵や写真などを見て想像を膨らませながら読むこと、自分の読みたい本を探して読むこと。	読んだ内容に関連した他の文章を読むこと、疑問に思ったことなどについて関係のある図書資料を探して読むこと。	読書発表会を行うこと、自分の課題を解決するために図鑑や事典などを活用して必要な情報を読むこと。	目的や意図に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てるようにする。その際、広く言語文化についての関心を深めるようにしたり、日常生活における読書活動が活発に行われるようにしたりすること。
児童・生徒の実態	本への興味・関心が高い。絵本が中心だが字が読めるようになると、幼年の読み物に移行していく。読み聞かせを好み、一冊の本を、最後まで聞きたがる。	読書の広がりが見られる時期である。また、一人読みの始まる時期でもある。きっかけがあれば本をよく読むようになるのもこの時期である。幅広いジャンルの本を読む。	自分の好きな本のジャンルや作者が確立されてくる時期である。読書の広がりだけでなく、深まりも観られてくる。読書に関する意識や個人差も広がる。	自分自身の読書の型が確立してくる。読書の習慣が身に付き自発的に読書をおこなう生徒も出てくる一方、時間のなさやめんどろくささから本から遠ざかる生徒も出て、個人差がさらに広がる。
手法	絵本の読み聞かせを中心に、10～15分に3～4冊の紹介が効果的である。	幅広いジャンルからの本の選択をおこない、10～20分に3～6冊の本の紹介が望ましい。	おもしろさ・楽しさとともに考えや知識が深まる本との出会いも必要。 10～20分に3～8冊程度が良い。	幅広い分野から、生徒や集団に合った本を選ぶ。15～20分に3～8冊ぐらいの紹介が良い。
テーマ 一例	身近なものや日常親しみやすいテーマ。 動物(犬・猫・猿など) ともだち きょうだい 食べ物 きのみ あそび 虫 など	第1段階のテーマに併せ、抽象的なテーマも入ってくる。 まほう 季節 家族 仲間 きょうりゅう さかさま こわい など	さらに、道徳的なテーマや国際的なテーマなどもある。 命 友情 冒険 平和 スポーツ 時(時間) みち 川 など	生き方に関わるテーマなども入ってくる 世界の国々 戦争 宇宙 旅 色 など

* この表は、児童・生徒の実態をおおまかに4段階に分け、それに応じた「ミニブックトーク」の手法を例示したものである。学年またはその集団の段階に応じたミニブックトークを行うと効果的である。上記の表の児童・生徒の実態に関しては、「読書に関する意識調査」や研究員その他の教員からの児童・生徒の実態を整理したものである。

(4) 実証授業

① 単元名「おもしろい本をしょうかいします」(国語科 小学校第3学年)

② 単元の目標

- [国語科] ・テーマにそった読み物に興味をもって読む。
- [読書活動] ・本に出会う機会を通して、本に興味をもつ。
- ・自分が読み、興味を持った本の中から、紹介したい本を選ぶ。
- ・友だちと交流することによって、読書の幅を広げる。

③ 評価規準

[国語科]

関心・意欲・態度	・テーマにそった読み物に興味をもち、読もうとしている。
読む能力	・テーマにそった読み物を探し、読書の幅を広げて読んでいる。
話す・聞く能力	・伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話す。
言語における知識・理解・技能	・その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話す。

- [読書活動] ・紹介したい本を、進んで選んでいる。
- ・本のおもしろさを工夫して伝えようとしている。
- ・本のおもしろさを感じ、いろいろな本を意欲的に読もうとしている。

④ 本分科会の研究テーマとの関連



意識調査の結果から、自ら本を手に取り読んでみようという意欲につながるような、多くの本に出会う機会をつくる必要がある。「本に出会うきっかけ作り」として、教師によるブックトークから、子どもが自分で選んだ本を紹介し合う活動へと広げる流れの中で、読書に親しませ、読書意欲を支える活動を日常的に取り入れていくことが、意欲的な一人読みにつながると考え、本単元を設定した。

⑤ 単元の指導計画 (5時間扱い)

	活動内容	○指導事項と教師の支援	◎評価規準
1	・ブックトークを聞く。 ・本を選んで読む。	○意欲的な読書のきっかけとなるようなブックトークのテーマを選ぶ。 ○個に対応するようにいろいろなジャンルの本を選ぶようにする。 ○朝読書や給食の待ち時間に読むことができるようにする。	◎進んで本を選んでいる。
2	・3～4人のグループを作る。 ・紹介する本や場面を選ぶ。 ・紹介する方法を考える。	○本を紹介する方法を、これまで体験した読書活動をもとに、方法を選ばせる。	◎自分が紹介したい本を選んでいる。本の魅力を伝える効果的方法を考えている。
3	・発表のための準備をする。 ・練習する。	○自分が紹介したい場面を適切に選ぶことでおもしろさが伝わることを助言する。	◎本のおもしろさを伝えるための工夫をしている。(本の紹介カード・新聞作り・紙芝居・人形劇・ペープサート・クイズ・本の帯作りなど)
4	・グループに分かれて練習する。	○聞いている友だちが、その本を読みたくなるような工夫をするよう助言する。	◎本の魅力を伝えようとしている。
5	・半数のグループが発表し、半数のグループが聞く。	○友だちの発表を聞き、読んでみたくなかった本は、感想カードに印を付け、感想を記録する。	

	<p>・その後、感想をカードに記入し、感想を発表する。</p>	<p>◎友だちの紹介してくれた本を知り、自分でも意欲的に読もうとしている。</p> <p>○発表した児童の本や作品を掲示して常に見たり、手にとって読んだりできるようにする。</p>
本時	<p>・4グループが発表し、4グループが聞く。</p> <p>・1グループが発表したら、感想カードを記入する。</p> <p>・感想を発表する。</p> <p>・紹介された本の中から興味をもった本を選読む。</p>	<p>○本のおもしろさが伝わるように工夫することを確認する。</p> <p>◎本のおもしろさを工夫して伝えようとしている。</p> <p>○本への興味の広がった児童の感想を取り上げ、今後の読書活動が意欲的に行えるような言葉がけをする。</p> <p>◎本のおもしろさを感じ、意欲的に読もうとしている。</p> <p>○発表した児童の本や作品を掲示して常に見たり、手にとって読んだりできるようにする。</p>


⑥ 指導の実際 1 (1時間目/5時間中)

紹介する本	紹介の実際
 <p>『化け猫レストラン』 怪談レストラン編集委員会・責任編集 松谷みよ子 かとうくみこ絵 童心社</p> <p>『ノラネコの研究』 伊澤 雅子 作 福音館書店</p> <p>『タンゲくん』 片山 健 作 福音館書店</p> <p>『魔女のねこゴブリーノ』 アーシュラ・ウィリアムズ 作 福音館書店</p> <p>『イヌのいいぶん、ネコのいいわけ』 なかの ひろみ 福音館書店</p> <p>『家の中ではとばないで』 ベティ・ブロック 作 徳間書店</p>  <p>『聴導犬・美音がくれたもの』 松本江理 作 ハート出版</p>	<p>ぼくおばけ (指人形 おばけ)</p> <p>私もおばけ おれもおばけ</p> <p>ぼくもおばけだよ おいらもおばけですよ</p> <p>「ドロン」</p> <p>・みなさんは、長い夏休みに「おばけ」に会った人はいますか。近くに、こんなおばけがいるか。「ぼ・け・ね・こ」、「化け猫レストラン」(素話)</p> <p>・今日は、「犬それともねこ」というテーマでブックトークをします。</p> <p>・みなさんの家の近くにもノラネコがいませんか。そんなノラネコのことを研究した人がいます。(ポイント紹介) ※地図</p> <p>・ある日、こんなねこがやって来たら、みなさんは、どうしますか。(全文読み聞かせ後、クイズ)</p> <p>・魔女のねこに生まれて、魔法も使えるのに、家ねこになりたかったねこもいるんですよ。(部分紹介) ※人形</p> <p>・ねこの本ばかりだと思っている人もいますよね。次の本は、犬の本でもあります。(部分紹介・ペープサート)</p> <p>・手のひらに乗るくらい小さな犬がいたら、楽しいですね。次のお話は、たった10センチしかない犬が出てくるお話です。(あらすじ) ※指人形</p> <p>・みなさんは、盲導犬を知っていますか。目の見えない人のお手伝いをしている犬ですね。耳の聞こえない人のお手伝いをしている犬のことを聴導犬と言います。美音は、赤ちゃんを育てるお手伝いをした犬なんですよ。(わんマントイズ紹介)</p> <p>・読んでみたい本は、ありましたか。他にも、犬やねこが出てくる本がたくさんあります。みなさんも、犬やねこが出てくる本を読んでおもしろかつ</p>



た本をお友だちにも紹介してみましよう。どんな方法で紹介すると、友だちが読みたくなるでしょうか。工夫して紹介してみましよう。

⑦ 指導の実際2 (5時間目/5時間中 展開35分)

活動内容	○指導上の留意点 ◎評価
<ul style="list-style-type: none"> ・活動のめあてと活動全体の流れを知る。 おもしろかった本をしょうかいします ・それぞれの本の紹介と発表をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・4グループが紹介し、4グループが聞く。  ・1グループが発表し、感想カードに記入する。 ・感想を発表する。 ・今回の活動で紹介された本の中から、興味をもった本を選んで読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れを確認する。 ○本のおもしろさが伝わるように工夫することを確認する。 ○本のおもしろいところが伝わるように、工夫したところを活かして発表させる。 ○発表が終わったら、紹介した本と作品を一カ所に展示できるようにしておく。 ◎本のおもしろさを工夫して伝えようとしている。 ○聞く児童は、感想カードに印をつけ、感想をメモする。 ○本への興味の広がった児童の感想を取り上げるようにする。 ◎本のおもしろさを感じ、意欲的に読もうとしている。

⑧ 考察

工夫

- ①ブックトークと読書時間を結び付けて授業展開を行った。
- ②様々な方法を選択できるような工夫をして、自分の選んだ本を紹介させた。

児童の活動の状況

- ①ブックトークを聞いて興味をもった本をすぐ手に取ることができた。
- ②児童の記録から
 - 「他の作者の本を紹介してあったのでよかった。」
 - 「クイズがおもしろいので読んでみたくなった。」「どんな答えだろう。」
 - 「ペープサートが楽しくて、今すぐ読みたくなった。」
- ③『読んだ人から』は、本を読むとすぐに感想を書いて紹介してくれた人に届けていた。この活動も効果的であった。

考察

- ①紹介された本をすぐに読めるように複数冊用意したことやブックトークの後に読む時間を確保したことは、ブックトークで芽生えた読書意欲をふくらませるのに有効であった。
- ②子どもが自分で選んだ本を紹介し合う活動に広げ、紹介された本を読んだ児童は、感想を手紙に書いて渡すようにした。そのことで、児童相互の読書交流も生まれ、読書の幅を広げるきっかけにもなり、読書の習慣化につながっていった。

(5) 実証事例

始業前の読書の時間（朝読書）は、読書の時間を確保し読書活動を充実させるために効果があると考えられる。また、読書意欲を高める活動として、朝読書の時間の「ミニブックトーク」、読んだ本の面白さを伝え合う交流活動「家庭読書」「本のCM」を実施した。

① 日常の読書を支える活動

ア 始業前の読書（中学校）

(ア) 活動のねらい

- ・ 読書時間の確保
- ・ 読書習慣の形成
- ・ 読書を意欲的なものにする



(イ) 活動内容の実際

- ・ 毎朝8時30分から10分間、全校一斉に読む。（毎朝読む、みんなで読む）
- ・ 読む本はマンガ、雑誌以外の好きな本を各自で用意する。（好きな本を読む）
- ・ 読書感想文を書くことは求めない。簡単なメモは残しておく。（読むことに集中する）

② 読書意欲を高める活動

ア 「朝読書の時間を利用したミニブックトーク・韓国ブックフェア」

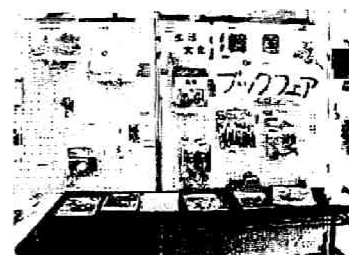
（特別活動 中学校第1学年）

(ア) 活動のねらい

- ・ 個人の興味・関心に合わせて自ら本を選び読書に親しむきっかけを作る。
- ・ 「朝読書」の時間を利用し、落ち着いて本と向き合える時間を確保する。
- ・ 生徒同士で本のおもしろさを伝え合うことにより、次の読書意欲を高めていく。

(イ) 活動内容と実際

- 公共図書館との連携・・・東京都立多摩図書館でまとめられた中学生向きブックリストを基に、本を選択した。（公共図書館の団体貸し出しにより約50冊用意した。）
- 展示方法の工夫・・・「韓国ブックフェア」と名付けて、オープンスペースに本の表紙が見えるような展示を行った。ペットボトルを利用した本立てを作り、壁面と机に本を並べる。
- 本に出会うきっかけ作り・・・朝読書の時間に教師によるミニブックトークを行う。
- ミニブックトークの流れ テーマ：「もっと知ろう、韓国」
韓国の昔話（5分）・・・絵本の読み聞かせ（1冊）



↓
韓国と日本の生活文化について（5分）・・・写真の活用をしつつ、韓国と日本の文化的な類似点や生活習慣の相違点の紹介（2冊）

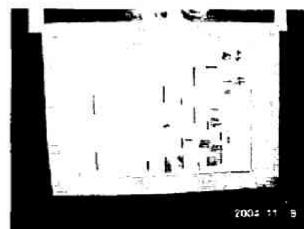
↓
韓国と日本の歴史（5分）・・・韓国と日本の歴史について書かれた中学生向けの本の紹介（2冊）

- d 読書時間の確保・・・本の展示期間の約3週間は、本を手にとってその場で自由に読めるようにする。朝読書の時間に教室で読みたい生徒は、貸し出し手続きを行う。
- e 交流活動・・・読み終わった生徒は、コメントを「おすすめカード」「クイズカード」を記入する。友だちのカードを本の近くに掲示することで、読書への関心を高め、次の本を選ぶためのきっかけとした。「ブックフェア」企画の一環として、図書委員による韓国民話の朗読を朝読書の時間に2回実施した。

イ 読書郵便・家庭読書（国語 小学校第1学年）

（ア） 活動のねらい

- ・読んだ本の中で面白かったところなど、家の人に紹介したい内容を手紙にするため、読もうとする気持ちを高める。
- ・家の人に同じ本を読んで返事を書いてもらうことで、本の内容にふれる会話を広げる。
- ・本の感想を发表或し（手紙を読む）、本を教室に置いたりすることで、友達が読んだ本に興味を持ち、本や読書に関心や意欲を高める。



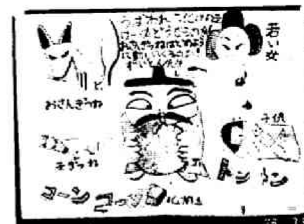
（イ） 活動内容の実際

- ・家の人から、本についての感想や体験談・児童に向けてのメッセージなど多様な内容の返事が返ってきた。
- ・本の感想を发表し合うことで、友達が読んだ本に興味を持った。
- ・紹介された本を教室に置いておくことで、休み時間など本を手にとって読む児童の姿が見られた。

ウ 「本のCM」（国語 小学校第4学年）

（ア） 活動のねらい

- ・自分で本を選んだり、読む本の幅を広げたりするための情報を得る機会にする。
- ・CMを工夫したり本を紹介し合ったりする中で、読書の楽しさや自分が薦めた本を友達が手にすることのうれしさを味わわせ、次の読書への意欲を高める。



（イ） 活動内容の実際

- ・本の帯作りや本の紹介ポスター作りを想起し、今回はより積極的に本を宣伝して、友達が実際にその本を読んでもくれるような紹介活動であることを理解して始めた。本を選ぶときには、ジャンルや内容に偏りが無いよう幅広い図書の中から選ぶようにさせた。
- ・選んだ本の面白さを伝えるための言葉や絵、デザインを工夫して短いCMを作り、発表会を行った。自分が紹介した本をみんなに読んでもらいたいという気持ちで、とっておきの1冊を選ぶのにも、効果的な宣伝をするのにも熱心に取り組んだ。
- ・紹介された本を読んだ後には、感想カードを書いて紹介者に手渡すことで読書交流をする姿も見られた。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

- ・到達段階に応じた教材を用いることで、資料の活用法、再構成、考察の方法を身に付けさせることができた。
- ・児童・生徒は興味のある事柄をきっかけに、今回提案したワークシートを段階的に利用することにより、発想や視野を広げるとともにテーマを絞り込められるようになった。
- ・情報活用指導により、図書館資料の活用法を知ること、ミニブックトーク等の読書活動の後で児童・生徒が選ぶ本の分野に広がりが見えつつある。
- ・日本十進分類法に基づいた配架を進めるとともに、公共図書館と連携し、児童・生徒がより適切な資料に出会うことができるようになった。
- ・図書館にある本を何冊か当たるよう、個に応じて助言することにより、児童・生徒が自ら検討し最適な本を探ることができるようになった。
- ・児童・生徒は、個々に助言を与えることによって、多くの資料の中から自分の知りたいことだけを選び取り、適切な言葉でまとめることができるようになった。
- ・児童・生徒が常に互いに学び合う環境を作り出すことにより、自分以外の作品からテーマの取り方、資料のまとめ方を学び、次へのステップとすることができた。
- ・教師が短時間で様々な本を紹介できるミニブックトークに着目し取り組んだ結果、児童・生徒は、進んで本を手に取り読む機会が多くなった。
- ・本の紹介活動や感想カードの掲示により、次に読みたい本を選んで読書を始める児童・生徒が増えた。また、感想カードの交流が現在も続いている。
- ・おもしろい本に出会った児童・生徒は、朝読書など日常の読書を支える活動の中で短時間でも本を読もうとする意欲が見られ、読書習慣が身に付きつつある様子が見えた。
- ・学習指導要領のねらいや児童・生徒の実態と、ミニブックトークの手法やテーマとを関連付けることができた。

2 課題

- ・ブックトークなど本の紹介活動を行うために、ブックリストの紹介や団体貸し出しなどの公共図書館との連携を推し進めていく必要がある。
- ・読書の習慣化を図るためには、児童・生徒の変容を把握しながら継続的な取り組みをしていく必要がある。
- ・紹介された本や新しい本をすぐ手に取れるような読書活動の工夫や、環境整備をしていく必要がある。
- ・朝読書やミニブックトークを行って児童・生徒の読書意欲を維持させるためには、自発的な読書時間を持たせるよう工夫する必要がある。
- ・読書の楽しさ、おもしろさを伝える活動を学級内にとどめず、学年そして学校全体へと広げていきたい。

平成16年度 教育研究員名簿（ 学校図書館 ）

	区市町村名	学校名	氏名
A 分 科 会	品川区	宮前小学校	西川鏡子
	昭島市	東小学校	太田哲子
	小平市	学園東小学校	山川順子
	狛江市	狛江第二小学校	○田揚江里
	東久留米市	小山小学校	武井織香
	目黒区	第四中学校	◎堀江昌枝
	葛飾区	一之台中学校	永田松子
	東大和市	第三中学校	副島正子
B 分 科 会	港区	赤坂小学校	小荒井真里子
	荒川区	第三日暮里小学校	○浅井しのぶ
	練馬区	橋戸小学校	鈴木栄都子
	足立区	鹿浜小学校	松延啓子
	江戸川区	南葛西第二小学校	郡敦子
	荒川区	諏訪台中学校	堀加奈子
	福生市	福生第二中学校 都立八王子東養護学校	高岡雅人 大越恵仁

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 藪田 憲正

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社